

# 新潟産業大学報

# 青海波

# 第7号



「アジア太平洋国際シンポジウム」に当つて

学長金田一郎

新潟産業大学は、昨年四月に人文学部環日本海文化学科を設置し、また国際シンポジウムを主催することになつてゐる。ここで、改めて「環日本海」に関して一言すべきかと思う。

としても、例の「日本の大型・ハイテク技術と資本、韓国の中型技術と資本、中国や北朝鮮の良質の労働、ロシアの豊かな自然資源の相互補完関係」を強調する話になっていたり勝ちである。それだと、一九三〇年代のあのブロック経済における、植民地に対する宗主国との論理的（資源・労働と商品販路の地域的確保）に近づいてくる。

であろう。このような方向で、『環日本海經濟圏』は學問的研究の対象となり得る。なお因みに、環日本海圏域内の平準化は、日本国内における、一極集中を排する分権化＝平準化からも、アナロジカルに肯定されよう。

現実的なもの (was wirklich ist) ある。は当然には理性的 (vernünftig) であるとは限らない。現実的なものを理性的にする努力が必要である。また歴史的に言って、実利のみを追うところから、大きな思想、理論、技術が生まれた例 タメシ のないことを強調しておきたい。

「環日本海経済圏の研究・教育」という事を明記したわけであるが、その後、時の経過に従って私自身の考えもそれなりに固まってきた。 「環日本海」に関しては、大抵文化交流と経済圏形成が話の中心となるが、経済圏の話の場合は、どうしても「ビジネス」の問題に傾く嫌いがある。勿論それも大事な事柄ではあるが、大学として取組む場合は、別の視点があつてもよいようと思う。

「ビジネス」中心の見方だと、どうしてもウマイ話を求め勝ちになるし、その延長だと、たとえ国際政治レベルに問題を昇華しよう

確かに、「相互補完」関係は二つの段階としてはあり得るかも知れないが、「経済圏」として恒久化する性質のものではないようだ。環日本海圏の国々はいずれもある程度の水準の基礎的科学技術を有するわけであるから、いざれ経済水準もある程度の高さに標準化されるはずである。とするところ「環日本海経済圏」を考えるとしても、それは、出張生産を軸とする垂直分業、工程分業的なものではなく、全体としての世界経済システムの中で一つの単位・サブシステムとして機能し得る形のものでなくてはならない。勿論、それによって、全体システムもサブシステムも互いに恩恵を受ける形で

だと地域エゴが強くなり、地域間競争、環境破壊、飢餓問題などを惹き起こし易い。そのためにも、地域をサブシステムとして組込んだ世界システムの構築が、今後ますます重要な意味をもつてくることと思う。(環日本海経済圏)構想は、その意味で「ビジネス」よりも「ヒューマニズム」であるべきで

A black and white photograph showing the exterior of the National Museum of the American Indian. The building features a modern architectural design with a curved facade and large glass windows. A paved walkway leads up to the entrance, which is flanked by trees and a street lamp. A white car is parked on the left side of the image.

隨想



ざらざらした日常の雑事に追われて、文字を連ねて業が日々に希薄になっていくのを、苛立たしく思うばかりのこの頃です。その苛立ちをおさえながら、合い間を見つけて、読み切れぬ本の頁をひもといたり、疲れては心もとなない夢想にふけったりしています。

夢といえば、深い眠りにひきこまれる前の、現とも幻とも見える状態のなかで、思い出の中から探りあてて見た景色のお話をしますよう。

それはまぶしい程の陽の光を浴びて、銀粉をまぶしたように輝く果てしない水のひろがり——青い青海の姿でした。どうやらかつて旅をした南フランスの地中海の小さな漁村の海辺でみた姿でした。このマリアは、キリストの母ではなくて、その妹のマリア・ヤコベ、使徒ヨハネの母のマリア・サ

ロメ、そして、イエスに救われた  
娼婦だったマグダラのマリア。そ  
の聖女たちが、パレスチナから追  
放され、帆もない舟に乗せられて  
海をただよいながら、この小さな  
漁村にたどり着いたといわれてい  
ます。それが、その村の名の起源  
なのです。

いかめしい城砦のような教会が  
村の中央にたっています。恐らく  
地中海をあばれまわる海賊たちか  
ら、身をまもるために村人たちが  
そのようないかつい形の教会堂を  
作つたということです。南仏の青  
い空にそり立つその教会の姿が  
目に焼きついています。

さらに思い出は、教会の薄暗い  
地下へと導いてくれます。そこには  
サラという名の黒人の女性の像  
がたたずんでいます。マリアたち  
の召使いだった彼女は、陸に残さ  
れて嘆きの涙にくれっていたのです  
が、マリア・サロメの投げた外套  
が、いかだとなつたので、サラは  
主人たちの小舟に乗りこめたので  
す。そして聖女となつたサラは、  
後にジプシーたちの守護聖女とし  
てあがめられるようになりました

A black and white photograph showing a building with arched windows and a tree in the foreground.

五月に行われるお祭りには、ヨーロッパ中のジプシーたちが、この小さな村に集まつてくるのだそです。

渡のシルエットがぼんやりと浮かんでいました。潮の香にむせびながら、浜辺に腰をおろして、ずいぶん長いこと、陶然としていました。ああ、あの島の茫漠とした影は、横たわる女人の胸乳を思わずせんか。それはもう

ずっと以前に身まかれた母の寝姿であると思いました。フランス語で「母」は「メール」と言います。そしてまったく同じ発音で「海」を表わします。そういえば、ぼくたちの日本語の「海」もまた、その文字の中に「母」を抱いているのです。





## 経済学部の今後の対応

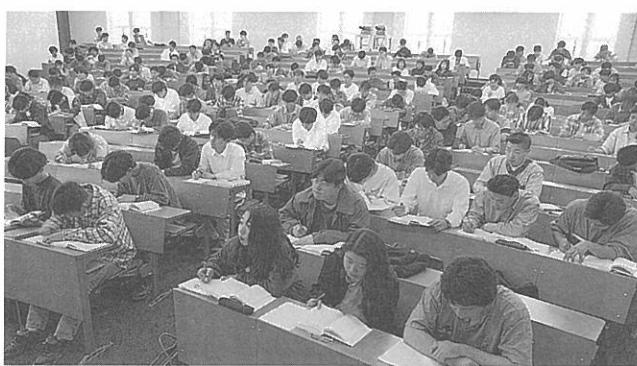
経済学部長 坂 東 淳 悅

大学もこの時期、卒業生三四五名が巢立ちをし、キャンパスの中も一抹の寂しさが漂いましたが、草木の芽吹きにあわせて、新生を迎えることになりました。希望に満ち溢れ、意欲に燃えた若人の高まりに触れる時、私ども教職員もそれに応えるべく、気持が引き締まる思いで一杯になります。学生の今後のキャリアが充実したものであり、四年後の実社会への旅立ちが、彼らにとって大いに羽撃けるよう、努力を怠つてはならないと自戒するところです。

さて、バブル経済が崩壊し、企業では急速な経済環境の悪化に応すべく、リストラ、リエンジニアリングを強力に推進し、また政府では、行財政改革の旗印のもと、機関の統廃合や、財政再建のための税収確保といった諸策が講じられています。大学に於いても、一昨年に始まつた一八才人口の減少に対処すべく、それぞれの大学に於いて様々な手立てが講じられて

います。本学でも、これらの環境の変化を踏まえ、量的、質的にそして、時間的なスパン（短・中・長期）で、対応策を講じてゆかなければならぬわけです。当然の事ながら、大学は教育・研究の機関ですので、社会や学生のニーズを十分踏まえながら、充実した教育内容のもとに、真摯な努力を重ねなければなりません。本学でも、施策を実効あるものとして、現実化してゆかなければ、これから的是非に立ち向かってゆくことはできません。そのため、私どもとしては、実態を十分把握しながら、そこでの問題点を十分認識し、それについての解決策を見出せるよう努力しなければなりません。まさに、Plan-Do-See(Control)の意思決定であり、そのための組織として大学をみると忘れてはなりません。すなはちフィードバック機構を有する組織として機能させなければならないわけです。もちろん、問題点には、定型的なものもあれば、非定型的なものもありますので、それらをきちんと区別し、前者については、短期的

に、それに対する施策も同時に実施に移してゆかなければなりません。本学としても、(1)更なる教育内容のレベルアップ、具体的には、大学院修士課程の設置、臨時定員増から正規定員増への切り替え、教職課程の併設等、(2)施設面での充実、(3)入試制度の改善および、学生の就職の確保に真剣に取り組むことだと考えます。付言すれば、(1)については、前者に於いてこれまでも学内で提起され、今後は、専門だけに囚われることなく幅広い知識の攝取にも努め、またより多くの人々との交友の輪を形成することも不可欠だと思います。大学としても、そのような学生に対しては、大いに手助けをしてゆきたいと考えております。



また、今日の学問は、一方で専門分化をしながら、他方では、他の学問領域に跨がる部分をも対象に包含してきていますので、まさにインターネット・ディジタル・导购が必要だと思います。是非とも、地域社会の理解が必要不可欠であり、その意味で、是非とも、それらに貢献できる研究機関（シンクタンク）として、信頼され、存在感のあるものにならなければなりません。

以上の如く、大学は、教育研究そのコンセンサスづくりとその実施に向けての作業の推進がはかられると思います。これは、教員スタッフの更なる充実を含め、教育内容のレベルアップに直接結びつくものだと思います。また、正規定員増への切り替えについては、私学の財政面を考えれば、当然の事ですし、その面での安定強化は他の施策の実現に直接係わるものといえると思います。(2)については、とりわけ通学環境の整備充実、学生会館、新図書館の新增設等、(3)については、今後の大学の教育や運営に直接関係するものなので、教職員あげて、緊急な対応をしなければならないと思います。いずれにしても、大学財政を十分勘案しながら、優先度をつけるとともに、学内での合意のもとに実現に向けて努力しなければならないと思います。

以上、一八才人口の激減が現実化している中で、同系列の大学が県内にも開設されたという状況を踏まえ、本学もこれらの問題に、真剣かつ全学的に取り組まなければならないと思います。そのためにも、地域社会の理解が必要不可欠であり、その意味で、是非とも、それらに貢献できる研究機関（シンクタンク）として、信頼され、存在感のあるものにならなければなりません。



全国に類を見ない当学環日本海文化学科も無事満一年を経過しました。当初の予想を上廻る五十八名の留学生諸君を迎へ、教員も事務の方も、大変な努力を強いられながら、やっと一年たつたと云うのが実感です。

## 将来に向けて

人文学部長 光益徹也

まづ第一の感想としては、これまで程に柏崎の市民の皆さんに、留学生諸君に親切、協力して下さいましたことです。この厚意と御親切は他の都市、特に大都会では絶対見られないことで、この点は留学生諸君も、市民の皆さんに感謝して下さい。次は留学生を担当して下さった先生方と事務諸君の苦労です。これには私もホトホト感

動しました。これもよく解ることと思います。  
次に反省の点は、初めての留学生の対応に私ははじめ学部が追われ、一般学生に対しても配慮が手薄になつたことです。この点は学生諸君に対し相済まなく思つております。本年度より大いに改善いたします。数ヶ国の留学生が一般日本人学生と共に勉学している姿は正に国際学部の象徴で、本年も又五十名の留学生を迎えますが、国際化された大学の一里塚として、希望をもって前進したいと思っております。

## 自由と自己管理責任

学生部長 鍋田英彦

大学は自由な学問の府である。学生諸君からみた大学の魅力は自由度の大きさかもしれない。誰しもが自由を求め、厳しい管理組織とは無縁の存在でありたいと思つてゐる。しかし大学における自由の意味は、決して自由奔放の意味の自由ではなく、あくまでも規律ある自由の意味であることを強調しておきたい。大学も組織である以上、また教育機関である以上、

中自由といつても最低限の守るべき約束があることを自覚して



もらいたい。加えて、自由には自己責任の原則が付きまとう。自由度の大きさに比例して自己責任の重みが増すのが一般的である。これは自由度の代償とも言えよう。かたとえば自動車を購入することは事情が許す限り自由である。車を持てば快適なカーライフをエントリする事が可能になろう。

しかし、そのことで自己管理責任が問われるようになる。交通ルールの無視、酒気おび運転は自己管理能力を疑われる行為である。

交通事故に限らず、心とからだの健康管理にしても同様である。現代社会はあまりにも健康を害するようなモノや誘惑が身近にあります。

自らの行動を制御する能力をもつて、何事も語り合える友を積極的に作つても困る。大学生らしくチャレンジ精神を持つてもらいたいし、何事も楽しい。悩みごとや相談ごとがあれば気軽に学生課の窓口やカウンセリング室を訪ねてもらいたい。それも自己管理能力である。

## FD? FDって何ですか?

教務部長 山崎一輝

「最初は、フロッピー・ディスクのことかと思いましたよ。」あるFDの会合で、P教授のこの発言に誰もが苦笑を禁じ得なかった。英語の先生方もご同様であったから、FDの重要性とは裏腹に、FDの知名度は良好とは言えまい。

FD(Faculty Development)とは、大学教育の質的向上に関することらしい。歯切れが悪いのは、ついに適切な訳語を聞くことができなかつたからである。あまりいい訳語が無いということまでは、確かに聞いたようだ。

私は今、日本私立大学連盟主催によるFDのワーク・ショップに参加した時のショックのことを、もう一度噛みしめている。期待した会でもなかつたのに、何がそんなにショックだったのだろう……

私がショックを受けたのは、その最悪の関係が普遍的事実である。こととそこにおける自己増殖性という特性に、恐怖と興味を同時に抱いたときだつた。

「大学教育は、危うい状況に直面しています。ほとんどの大学で、不本意就学で勉学意欲をなくしている学生が増えています。彼らは、隣の学生がばかに見えてしかたがないといふのです。」結局、その学生は本来自分が入学すべきで

あった大学には合格できなかつたという傷を持っていると同時に、不本意に入学してしまつた自分の大学に帰属できずに、隣にいる学生に対して抜き差しならない優越感を抱いてしまうのだといふ。それは、学生相互に起こることであり、ばかりにしあうという最悪の相互関係を生む。理想と現実のギャップと言つてしまえばそれだけのことが、偏差値切り競争の激化のあおりをくらつて、大学入学者にまで影響しているというこどだ。

それにしても、隣の学生がばかりに見えて仕方がないとは……何と強烈で、何と素直で、何と愚かな言葉だろう！

「それで？だから、どうだといふのです？」学生たちは、否定的な目で先生を見る。いや、見なすことすら有る。橋がないのだから、言葉は流れても、それ以上は流れることがない。私は、深淵を想像した。それは、今に始まつたことではないとしても……

私は報告者のK教授と分科会で意見を交換する機会をもつた。講義中の私語がどうして起こるの

か？どのような時に起こるのかも？それに対しても、他の学生はいないこの競争の被害者は、弱者が傷つけるに十分だからだ。勝者を軽蔑するという仕返しをすることによって自己満足する。

いや、学生と学生の間に留まらなかつた。学生と教員の間にも、最悪の関係は伝播して行かざるを得ない。

「学生は先生に対しても、橋のない川が有ると言うのです。」学生は、先生の講義に共感し得なくなってしまった。ノートはとることがなつてしまつた。単位はとることがなつてしまつた。ノートはとることはできる。単位はとることができない。しかし、意味が無くなつてしまつた。先生の研究テーマが、自分とは全く関係がない、あまりにも専門的な、あまりにも瑣末なことでしか無くなつてしまつてゐる……

私はその話を遠くに聞いて、そんなんに悪く言うことはあるまいに……と、会つたこともない某教授に必ずしも否定的とは言えない

にだけ語りかける。私はその話を遠くに聞いて、そんなんに悪く言うことはあるまいに……と、会つたこともない某教授に必ずしも否定的とは言えない

私は大学に戻つてから、ゼミの学生たちと話し合つた。家では、子供たちとも話してみた。互にわかり合えないこと、「橋」が無いということを話し合うのは妙な気分だつた。いろいろな理由を聞いた。その川底の深さを認めめた。橋が無いという現実を認められた。けれども、このとき、まさに橋が無いということを認めあうことによつて、言葉では言い表わせない共感を抱いた。うれしかつた。



## 父母の会 いよいよスタート

### 父母の会事務局

あれは確か、一昨年の6月であつたと記憶している。学生委員会を中心、大学と在学生と家庭とが相互理解を深めていくことが、大学のさらなる発展につながるとして、本学に「父母の会」を発足させる動きがでてきた。

# キャンバスから

## 私の日本観

人文学部一年



スモリヤニツカヤ オリヤ  
(ロシア)

日本に来る以前、



クラマル・シュク イラ  
(ロシア)

私はモスクワビジネス経営学院の日本語コースに通っていました。私は元々「日本の驚くべき高度経済成長を可能にしたのは何なのか」に興味があったからです。

日本の国に初めて来た時の第一印象は、疲れていてよく覚えていませんが、全てが機械的に動いていました。私は元々「日本の驚くべき高度経済成長を可能にしたのは何なのか」に興味があったからです。

この新潟産業大学の印象は新しく、きれいでモスクワの学校よりも大きく感じました。大学の先生や職員の方たちも親切に教えてくれ来日前の不安が少しずつなくなりました。モスクワへ帰省した時に、両親に沢山のおみやげと楽しい日本での学校生活の話を聞かせてあげるのが楽しみです。でももう少し日本の物価が安いともっと一杯オミヤゲも買つていけるのにと思ひます。

日本に来る以前、私はモスクワビジネス経営学院の日本語コースに通っていました。私は元々「日本の驚くべき高度経済成長を可能にしたのは何なのか」に興味があったからです。

日本に来る以前、私はモスクワビジネス経営学院の日本語コースに通っていました。私は元々「日本の驚くべき高度経済成長を可能にしたのは何なのか」に興味があったからです。

日本に来る以前、私はモスクワビジネス経営学院の日本語コースに通っていました。私は元々「日本の驚くべき高度経済成長を可能にしたのは何なのか」に興味があったからです。

## 半年の間に感じたこと

人文学部一年



クラマル・シュク イラ  
(ロシア)

私が日本に来る前に一番心配したのは、食事についてです。でもここで生活に慣れるに従つて、「大丈夫、なんとかなるな」と思えるようになりました。今でも天ぷらとか辛いものは苦手ですが、お寿司は大好きです。日本の若い女性は実際よりも若く見えて、「うらやましい」と思いますが、日本人は少し働きすぎのようにも感じます。モスクワでは、科目が沢山あって、ついていくのに大変です。

でも日本人学生の友人も沢山でてきて、今はとても充実した毎日です。皆、親切でホームシックもなくなりました。最初はモスクワに帰省する日を心待ちにしていましたが、今はそんなに考えません。

その他、柏崎市にあるいろいろな団体と交流をする中で、自国の料理を作ったり、レシピを説明したりしながら地域の市民と交流できることは、逆に日本を知る意味でも勉強になりました。

私は韓国から來た留学生です。昨年4月4日に来日して以来、約一年になりますが、その間いろいろなことがありました。まず、柏崎のJJC(青年会議所)のメンバーと一緒に韓国研修交流会に参加しました。私たち留学生は、新潟JJCのブロックに入り、研修や交流会が船の中で催され、夜はブロック単位で交流して楽みました。次に思い出されるのは、柏崎のぎおん祭りに参加したことです。日本の着物を着て、町中を踊り歩いたことは、私にとって貴重な思い出となりました。

今、新潟産業大学に通う留学生の中にもアルバイトをしている人がいます。私もその一人です。今まで何人かの日本人学生と一緒にアルバイトをする機会を得ましたが、そこで気がついたことは、お金の使い方に大きな差があることです。留学生の多くは、アルバイトで

## 柏崎での一年間

人文学部一年



金基亨  
(韓国)

## 私のアルバイト観

人文学部一年



王堂金  
(中国)

得た収入を授業料や家賃、学習用具などの生活費に使っています。

それに対して日本の大学生はアーバイト収入を外食や娯楽などに使ない、授業料は両親からもらうことが多いようです。

私は今まで、日本人に対する「勤勉」や「儉約」などのイメージを抱いてきました。事実、現在の日本の高齢者層にはその姿を垣間見ることが出来ます。私は日本のか若い人たちに、かつて「勤勉」、「儉約」を美德とした日本人の姿を忘れて欲しくないと思っています。

## 公認部・サークル活動実績報告

(平成6年4月1日～12月31日迄)

部・サークル名	大 会 名	部・門・種目	大会参加者(学年)	成 績
空手道部	北陸信越地区大学空手道新人選手権大会 東日本大学空手道新人選手権大会 北信越生空手道新人選手権大会	女子個人 男子個人 女子団体 男子団体	高取 順代(2年) 服部和彦(4年) 高取信代(2年) 要 論(1年) 角田宗孝(4年) 風間由美(4年)	優勝 出場 第2位 第2位 第3位 出場 男子優勝・女子優勝
弓道部	全日本学生空手道選手権大会 北信越生空手道選手権大会	女子個人 男子個人 男女混合	久住智恵(2年) 北沢京子(2年)	第2位 優勝
剣道部	北信越剣道新人大会	男子団体		第3位
サッカー部	總理大臣杯新潟県予選リーグ 天皇杯新潟県予選大会 北信越サッカーリーグ	2部リーグ		優勝 第2位 優勝
柔道部	新潟県柔道選手権大会	個人競争男子65kg級	長谷川英世(4年)	第2位
少林寺拳法部	新潟県少林寺拳法大学大会 少林寺拳法新潟県大会	二段以上の部 三段以上の部	阿部晴樹(3年) 阿部晴樹(3年)	第2位 第2位
本泳部	関東学生水球春季リーグ戦 日本学生水球選手権競技大会 関東学生水球秋季リーグ戦	3部リーグ 水球競技 3部リーグ	原田光雅(3年) 原田光雅(3年)	第2位 出場 第2位
卓球部	春季北信越学生卓球選手権大会 夏季北信越学生卓球選手権大会	男子・女子団体 男子・女子ダブルス 男子・女子ペア 男子・女子ペア	原田光雅(3年) 原田光雅(3年) 原田光雅(3年) 原田光雅(3年)	男子第3位・女子第3位 第3位 男子第3位・女子第2位 第2位 第3位 第3位
国民体育大会	秋季北信越学生卓球選手権大会	女子ダブルス 男子ダブルス 女子ペア 女子ペア	高野文子(3年) 高野文子(3年) 高野文子(3年) 高野文子(3年)	6名出場 2名出場 男子優勝・女子第3位 第3位 第2位 第2位 第3位 第3位
バスケットボール部	笠木杯争奪北信越学生バスケットボール春季リーグ 北信越大学バスケットボール選手権大会	男子3部リーグ 女子3部リーグ		優勝 優勝
バドミントン部	北信越大学バスケットボール選手権大会	女子3部リーグ		優勝
バレーボール部	信越大学バレーボール大会 北信越大学男女バレーボール選手権大会	男子リーグ 男子1部リーグ		第3位 第5位
陸上競技部	国民体育大会 秋季北信越学生卓球選手権大会	男子200m 男子走り幅跳び 男子走り幅跳び	鶴賀 直嗣(1年) 松岡 央(3年)	優勝 第3位
ボクシング部	北信越国民体育大会	成年バンタム級 成年バンタム級	岡田有由(3年) 岡田有由(3年)	優勝 出場
吹奏楽部	アンサンブルコンテスト新潟県大会大学部	木管三重奏		銀賞

## 平成7年度入試の概況

入試部長 竹内明眸

平成7年度の本学入学試験は昨年の11月実施の「指定校推薦入試」はじまり、2月22日実施の「一般入試B方式」を以て、全日程を無事終了した。

平成7年度入試を振り返り、その概況についてはつぎのような点にまとめられよう。

まず全般としては、大学受験者層である18歳人口の減少、推薦入試者数の遵守、さらには最近の景気を反映しての経済学部離れ現象などの入試環境の難化を受けての逆風となつた。

経済学部入試では、昨年に比べて志願者数を減らす結果となり、なかでも「本学大学入試センター方式試験」においては対前年度比較で7割の大半減少となつた。この背景には、例年ない国公立大学指向の高まりと、なかでも地元国公立大学への志願率が全国的にみて高かつたことがあげられる。また地元新設校との競合も昨年以上に厳しくなってきたことも当然のことながら見逃すことはできない。

一方、開設2年目を迎えた人文

学部については、昨年來の広報活動が功を奏して、予想を上回る人気を集め、対前年度6割増の健闘を見せた。

全国的にみて人文系学部についても志願者数の低調が報告されて

いるなかにおいて、本学人文学部のこうした健闘は今後に期待をもたせる明るい要素である。また留学生入試についても、当初かなりの困難が予想されたが、韓国を始めとした本邦への働きかけ、ならびに日本語学校への積極的な働きかけが後半にいたって功を奏し、結果的に募集枠を超える志願者数を確保することができた。

さてこうした状況をふまえたうえで、今後の本学の入試のあり方を考えるうえで、いくつかの検討点がある。

まず志願者の減少に対する施策の必要性がある。すでに触れたように、主たる大学受験者対象となる18歳人口の減少については、一私事をもってしてもなんともしがたい事実であるが、一方における経済学部志願者の減少について

は克服しえないわけではない。教学上の施策は開学以来、多岐にわたって実施してきたが、それと同時に実施してきた種々の入試制度のあり方にも新たな工夫が求められてきているようにも思われる。すなわち、指定校推薦、スポーツ推薦、留学生推薦、自己推薦、一般入試方式、社会人ならびに帰国子女入試といった各種入試制度における再検討の必要性である。

こうした各種制度のなかで、全入学者に占める推薦入学者の割合を勘案したうえで、自己推薦制度を主とした推薦入試区分の再編を行うとともに、さらにはスポーツ推薦のあり方については、今後、学生部等との協議をふまえたうえで、あらためて検討を要するものと思われる。

また各種受験関連機関による本学の評価は、偏差値ベースでは経済学部が50ないし51、人文学部が49となっている。本学に対する評価は年々、確実に高まってきているようではあるが、いわゆる偏差値50程度に分布することは、受験者心理の面からも微妙なポジションにある大学と言わざるをえない。こうしたなかで確実に一定規模の志願者を確保するためには従来以上の魅力を大学 자체がもつことがよりも重要と思われる。

さらに今年みられた地元（中越

地区）における志願者の急減も懸念とされるところである。昨年、試験的に実施した「一日体験入試」が予想を上回る好評であったために、地元、とりわけ柏崎地区を主としての志願者の減少は気にかかる点である。今年度はこうした広報活動についても昨年以上に重点をおいて展開を図っていく予定である。

新しい構想のうえに生まれた新

潟産業大学であるゆえに、とりまく環境要因もけつして優しくはないが、果敢に挑戦していく姿勢をもと思われる。すでに平成8年度入試に関する活動はスタートしており、これらの課題を解決しつつ、新潟から全国へ、日本から海外へと一つ一つステップを登っていくことがスタッフ一同の願いであります。使命である。

## 平成7年度入試状況結果報告

### 経済学部

入試区分	定員	志願者	合格者	合格最低点
指定校推薦	約 65	83	83	—
スポーツ推薦	約 5	48	7	—
自己推薦	約 20	198	25	195/250
一般入試A方式	約 120	1,007	472	111/200
センター入試	約 40	154	43	206/250
一般入試B方式	約 50	649	52	143/200
社会人入試	若干名	1	0	—
留学生推薦入試	若干名	7	4	—
合 計	300	2,147	686	—

### 人文学部

入試区分	定員	志願者	合格者	合格最低点
指定校推薦	約 10	9	9	—
スポーツ推薦	約 5	6	4	—
自己推薦	約 15	75	21	174/250
一般入試A方式	約 40	445	115	110/200
センター入試	約 15	85	15	209/250
一般入試B方式	約 20	377	109	105/200
社会人入試	若干名	0	0	—
留学生推薦入試	約 45	58	56	—
合 計	150	1,055	329	—

# 就職課から

## 砂漠化した就職戦線で 産大生奮闘、97%が内定

「採用予定なし」、「採用大幅減」。新潟産業大学第四回卒業生が開いた新聞にも、この見出しがおどつた。全国の大卒採用予定総数は、前年比一六・九パーセント減。前年度が良ければまだしも、平成六年三月大卒者の就職率は、戦後二番目に低い七〇・五パーセントを記録（本学は、九二・一ペーセントと健闘）。今春全国大卒者の求人倍率を見ても四年連続でダウンし、男子が一・四三倍、女子にいたっては〇・六一倍と二人に一人は就職できない状況だった。

新潟産業大学としては、このような雇用環境の悪化に備え二年前から、第一回就職ガイダンスの開催時期を三年生の四月に繰り上げる等、対策を講じてきた（三年生の後期に開催する大学が多い）。腹を括り覚悟を決めた人間と時運の悪いは、誰の目にも明らかなもの。まず、学生たちに「自ら敵しい状況に立ち向かい、激しい競争

に勝ち抜かなければならぬこと」を強調することがねらい。

こうした全体の就職指導と同時に、個別指導に際しては、いたずらに危機感をあおるのではなく、節目節目に準備すべきものを指導した。また、新潟県及び隣接県企業の新規求人の掘り起しを行うとともに、就職情報媒体との連絡を密にし、求人情報収集と学生への情報提供の時間短縮を図った。

全国及び新潟県内の大学と比較してみても（別表）、本学学生の内定状況は大健闘といえる。特に、

新潟県内の他大学に対しては、十

月一日以降、常に内定率で一〇パーセント以上、水を開け続けた。

しかし、本学学生の就職活動も決して順風満帆ではなかった。企

業から採用内定が出始める七月時点では、わずか三九パーセントの学生しか内定を得てていなかつた（前年度四九パーセント）。

「当てにしていた縁故がダメになつた」と肩を落とす男子学生や、「もともと採用する気が無いのなら、甘い言葉をかけてほしくない」と採用担当者や男社会に対する怒りをぶつけてきた女子学生。就職指導室には、夏休み中も職を求めて奔走する学生たちが、大勢やつて

て來た。学生数が約百名増えたこともあるが、就職課の学生個人面談件数は、前年度の六〇三件から九一四件（延べ数）に急増した。

新潟産業大学が底力を見せたのもこの時期で、全国的に内定のピークを迎えた八月には、内定率を一気に七〇パーセントにまで押し上げた。最終的には、男子九七・九パーセント、女子も驚くほど粘りを發揮し、九五・三パーセントの内定率を達成した。

ほとんどの学生がすがしく、身勝手な内定辞退があり、課題として残った。いずれにせよ、半年以上過酷なストレスの中で就職活動を続けた学生たちには、ねぎらいのことばを掛けてやりたい。

対象とした追加募集や新規求人が寄せられ、数名の未内定者が就職を決めた。

このような状況の中、本学では、昨年十一月に三年生向けとしては、第二回目の就職ガイダンスと公務員合格者体験談発表会を、十二月には就職適性検査と就職模試を、年明けて一月には就職活動体験談発表会を、三月には公務員試験対策集中講座を開き準備を進めた。

そしてこの四月七日には、大卒採用のエキスパートを学内に招いて

「就職必勝セミナー」を開催するが、これを合図に、新潟産業大学の新四年生たちは、本格的な就職活動へと突入していく。

ここ数年産業界の新卒採用姿勢は、「抑制」一色に塗りつぶされてしまったが、社内の人員の整理もかなり進み、そろそろ一息つきたい時期にきてることは確かだ。新聞報道を見ても、営業・販売部門と開発部門をあらためて強化しようという動きが見られる。実際、昨年の秋以降本学にも、人員計画を上方修正した企業から、男子を

新潟産業大学 平成7年3月卒業生の就職状況  
(平成7年3月現在)

就職者数 産業分類(括弧内%は産業別の占有率)	計	男	女
農業・林業・漁業・鉱業(0.6%)	2	2	0
建設・住宅・不動産業(6.3%)	20	20	0
製造業(17.7%)	56	49	7
運輸・通信業(1.3%)	4	4	0
卸売業(17.7%)	56	52	4
小売業(25.8%)	82	76	6
金融・証券・保険業(10.1%)	32	23	9
サービス業(15.1%)	48	36	12
公務員(5.4%)	17	14	3
(イ)就職者数合計(100%)	317	276	41
進路未定者数	8	6	2
(ロ)就職希望者数合計	325	282	43
就職を希望しない者(進学その他)	20	13	7
卒業者数	345	295	50
(ハ)今年度内定率(平成7年3月現在)	97.5%	97.9%	95.3%
昨年度内定率(平成6年3月現在)	98.3%	98.1%	100%

注：(イ)就職者数合計÷(ロ)就職希望者数合計=(ハ)内定率

【参考】平成7年3月大卒者の内定率比較

	計	男	女
新潟産業大学 (平成7年1月31日現在)	93.5%	94.5%	86.7%
新潟県内全体(職安調査) (平成7年1月31日現在)	82.8%	84.6%	77.0%
全国の大学(文部省調査) (平成6年12月1日現在)	85.4%	89.0%	77.8%

# 新スタッフ紹介

## 可能性への挑戦を

人文学部

安 宇

植



一九七〇年代に  
遊学したストック  
ホルム大学では、  
学生の肌の色の多  
様さが印象に残った。アジア・ア  
フリカ・ラテンアメリカからの留  
学生である。そのせいか四百年の  
伝統をもつウララ大学と比べて  
活気があった。日本へ帰つてから  
は東京(教養学部)、立教、津田  
塾、都立、一橋など伝統ある大学  
への出講を重ねてきた。それらの  
大学の良さを認めつつも、多数の  
留学生を迎えた新たな伝統を築い  
ていく新興のわが大学は、よその  
大学にない多くの可能性を秘めて  
いると思うが身びいきだらうか。

## 柏崎で『クラリッサ』を

人文学部

黒川 敬三



この数年物語論  
研究のために十八  
世紀のイギリス小  
説を読む機会が多  
いのですが、これらは読み通すだけ  
でも大変時間が掛かります。しかし  
ここ柏崎は気のせいか時間の  
流れがゆっくりで、勉強するには  
最適な場所かもしれません。今後  
も人文学部という様々な可能性を  
秘めた新しい学部で、学生達と共に  
勉学に励もうと思っています。

# 学園生活を愛せ

経済学部 樋口 正昭

## 柏崎は雪が降るニューギニアだ

人文学部

山中 和樹



柏崎は瀬戸内育  
ちの私にとっては  
外国のようなもの  
だ。冬空はペルー  
の首都リマの冬を思わせる。雪が  
降る点だけが違う。港町というこ  
とではパプア・ニューギニアの首  
都ポロモレスビーを思わせる。

当時首都から三十キロばかり離れた  
緑あふれる田舎の高校に勤めて  
いた。産大はその高校の生まれ変わ  
りといつたところだろう。

都ポロモレスビーを思わせる。雪が  
降る点だけが違う。港町というこ  
とではパプア・ニューギニアの首  
都ポロモレスビーを思わせる。

(趣味・卓球、水泳、合唱、山行)  
講義内容には自信と責任を

経済学部 江口 潜

## ボーダーレスのキャンパス

人文学部

詹秀娟

昨年より人文学  
部の専任スタッフ  
の一員となりまし  
た。宜しくお願ひ  
致します。

私は主に、経済  
学部2年生の経済  
学の授業を先輩教  
員の方々と一緒に  
担当致しております。提供する講  
義の内容には自信と責任を感じ  
います。

ゼミも担当し、楽しくやつてお  
ります。ゼミの学生は元気一杯、  
精気にあふれた人が多く、私はい  
つも多くのを与えられていると感じ  
ています。

次に、校友会では次のような事  
業を予算化し、実践している中で、  
活動の活性化を目指して取り組ん  
でおります。

- 会員名簿の発行
- 校友会報の発行
- 年次会、支部会等の資金援助
- 在学生の海外交流事業参加に伴  
う資金貸付
- 在学生の部活動への補助金の交  
替

現在、会員数約五千余名。今後  
大学の発展と共にますます増えて  
いきます。躍進する校友会に暖か  
く、厳しい指導を期待するもの  
です。

(事務局)

# 校友会通信

編 入試課長 中村 真一  
集 隆高嶋 望  
後 加藤 榮一  
記 梅比良眞史  
小林 健彦

朝、犬と散歩をしていると春の  
訪れを身近に感じることができる。  
犬が遊ぶ公園の土手には、ふき  
のとうが芽吹き始め、冬支度の遊  
具たちも、子供たちを待つ春の顔  
となり、朝のさわやかな風に揺れ  
ている。

傍らを流れる小川のせせらぎす  
らも春を告げている。

この春、経済学部は8年目の春  
を迎え、4期生たちが学び舎を巢  
立つていった。

そして、今年も新たな出会いに  
胸を膨らませた新入生がやって來  
た。

この春、人文学部は2年目の春  
を迎え、ますます国際色豊かな  
キャンパスとなってきた。

各国語で朝の挨拶を交わす若人  
らの笑顔が、希望に満ちたキャン  
パスライフを彩ってくれる。2学  
部に集う学生たちのために、光り  
輝くキャンパスはある。

我が校を愛する人達の声が聞こ  
える。

学生たちの一年間の部活成績や  
「父母の会」の発足が、そのこと  
を物語ってくれる。

ますます、発展する我が校に、  
乞う御期待。